

守山市×Another works

民間人材との協働による地方創生の推進に関する連携協定による社会実験

成 果 報 告 書

1 協定締結および社会実験の概要

1 協定の概要

(1) 協定の名称 「民間人材と協働した地方創生の推進に関する連携協定」

(2) 締結の目的

民間プロフェッショナル人材の専門的な知見、実績やネットワーク等活用し、地方創生に掲げる自転車を軸とした観光振興および起業家の集まるまちづくりを推進し、持続可能な地方創生の推進モデル創出による地域の発展と地域の活性化を行うこと

(3) 連携協力事項

ア 民間人材募集・採用の協力・支援および情報提供

イ 「広報・PR」「マーケティング」「事業企画」の3分野への助言

(4) 協定の期間 令和3年5月20日から令和4年3月31日まで

2 締結式の内容

(1) 実施日 令和3年5月20日（木） 午前11時から正午まで

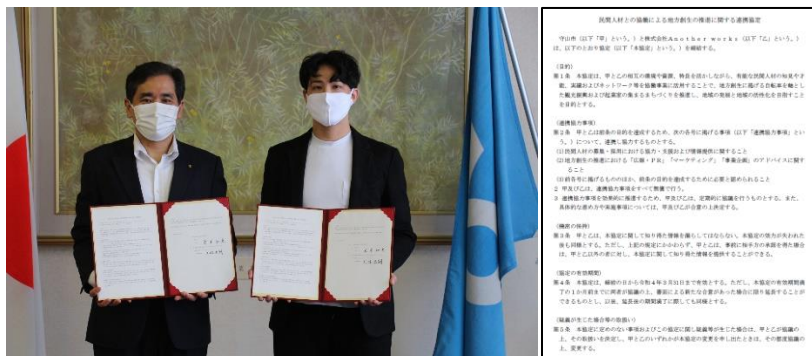
(2) 会場 守山市役所 2階応接室

(3) 参加者 守山市長、株式会社Another works 代表取締役 大林 尚朝

※締結式では事業詳細の説明、意見交換もあわせて行います。

3 締結後の実施内容

協定相手方の運営する複業人材マッチングのプラットフォームを活用する中、地方創生に掲げる起業家の集まるまちづくりをテーマとして、都心部で活躍する、地域活性化に想いのある複業人材から「広報・PR」「マーケティング」「事業企画」分野における政策アドバイザーとしてプロフェッショナル人材を数名程度登用し、官民連携による地方創生推進モデル作りを社会実験として実施します。なお、登用する人材は、都心部で活躍する複業人材から「無報酬」で4名程度の公募を予定し、登用した各分野の政策アドバイザーとはオンライン等での定期的な協議により、既存企画の見直しや新たな企画の検討・実施、検証までを年度内の一定期間で実施します。



2 人材公募およびキックオフミーティング



1 協定に基づく社会実験事業について

(1) 社会実験の概要

複業マッチングプラットフォームにより公募した、都市部で活躍する民間プロフェッショナル人材をアドバイザーとして登用し、官民連携により「起業家の集まるまち」の実現を目指すプロジェクトを約5月間の社会実験として実施するものです。

今後は、定期的にオンラインを基本としたミーティングを中心とし、年間事業への連携・助言のみならず、最終的には社会実験期間内の実施結果の検証と次年度政策への提言を行うほか、コロナ状況を鑑みながら本市にもお越しいただきます。

(2) 登用人数・職種

事業企画アドバイザー	坂口 賢司さん	(東京出身)
事業企画アドバイザー	早川 延寿さん	(東京出身)
マーケティングアドバイザー	吉川 賢治さん	(滋賀県出身)
広報・PRアドバイザー	田ヶ原 恵美さん	(滋賀県出身)

(3) 社会実験期間

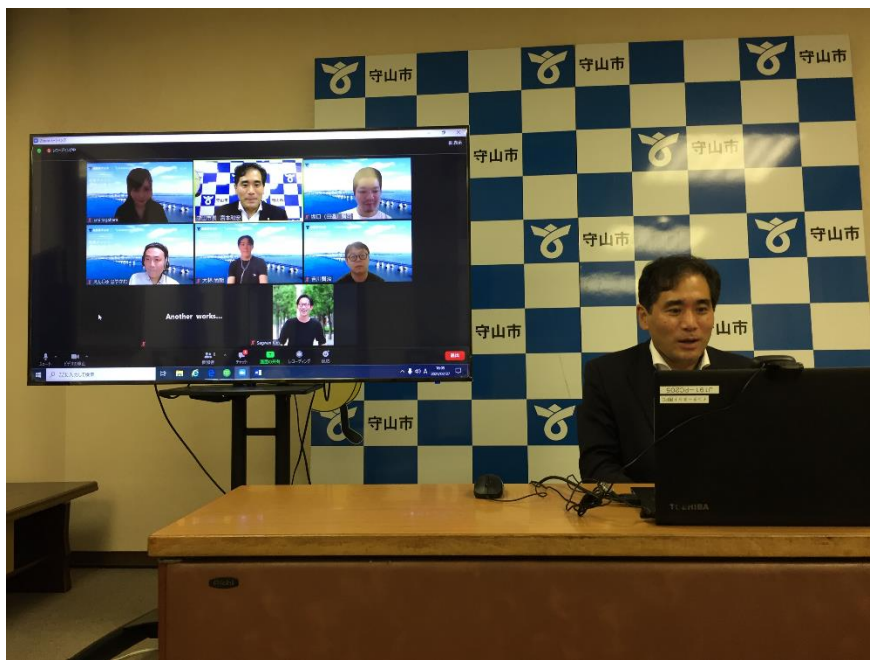
令和3年7月27日（キックオフ）から令和3年12月末日まで

(4) その他

6月1日から15日間公募した結果、全102名の公募がございました。

2 実証実験開始に向けたキックオフミーティング

- (1)実施日 令和3年7月27日（火） 午後3時から午後4時まで
- (2)会場 守山市役所 2階応接室にて（※オンラインにより実施）
- (3)参加者 守山市長、株式会社Anotherworks代表取締役
登用する複業人材 4名



【特記事項】

キックオフミーティングの開催にあたっては、行政アドバイザーの田ヶ原さんよりリリースのアドバイスをいただき、多数メディア取材いただくことができました。



参考情報 1 登用人材略歴

坂口 賢司：株式会社 ProfitMakers 代表取締役

2003年業務系SI会社入社、メガバンクの基幹システム開発に携わり、エンジニアとしてキャリアをスタート。2009年にSI企業からWebサービス系の事業会社へ転身し、2014年ランサーズ株式会社へCTOとして参画し、クラウドソーシングプラットフォームの運営においてエンジニア部門を統括。2015年株式会社Emotion Techに参画、取締役CTOに就任し、同社の成長に大きく貢献、現在は2015年に創業した株式会社ProfitMakersの代表取締役、複数社の取締役や顧問、アドバイザーを務め、スタートアップへの投資や、ハンズオンでの支援なども行う。2019年にスタートアップ支援を行う、事業会社におけるCxO経験をもつ方達の知見を集めた株式会社ハンズオンも設立。

早川 延寿：フリーランス

ヨーロッパ系・会計系の経営コンサルティングファームK社出身のグロースハッカー&コミュニケーションプランナー。マーケティングリサーチ会社・ライブドアを経て独立。ビジネスワークでは、消費者心理、行動経済、経験価値CX、アイデア創発ワークショップ、ウェブテクノロジーなどをベースに、BtoB向けサービス提供を中心に企業の新規事業プロジェクトをサポート。ビジネスモデル造りや思考法の企業研修企画・講師や壁打ちメンターも務める。現在はフリーランス名義の複業として、テック系のスタートアップ企業数社でBizDev/グロースチームに携わったり、ゼロイチ系のスタートアップスタジオを始めとした社会課題解決寄りのプロジェクトや社会実験にプロボノとして参画。

吉川 賢治：GreenSnap 株式会社マーケター

植物のアプリGreenSnapを提供するGreenSnap株式会社にて植物のEC事業担当。これまではマーケティング領域をベースに、食品メーカーのD2C事業のマネージャー、食品EC企業の事業副本部長、外資系スマートフォンメーカーのマーケターなどを担当。セミナー講師なども実施。

田ヶ原 恵美：フリーランス

大学在学中、学内で開催されたミスコンテストで準グランプリを受賞。SNSのマーケティングスキルを活かしタレント・インフルエンサーとして活動を開始。卒業後はITベンチャーで広報部の立ち上げを担当。自社PRだけでなく、業界啓蒙やファンベースを生かした広報活動を経験。松竹芸能所属。

3 活動の実績

1 行政アドバイザーとの活動実績

(1) 活動の期間 令和3年7月27日から令和3年12月23日まで

(2) 会議手法と会議の回数

オンライン会議を原則として実施し、下記の通り実施しました。オンライン会議については、原則週1回水曜日に1時間（各自予定調整し随時調整）を原則ルールとして実施し、協議資料は前日までに共有することを原則として実施してまいりました。

定例会議	全20回
個別会議	全16回
来市回数	全4日間（10/25.26 と11/21.22の2回）

(3) 個別連絡手法や相談対応

第1回会議の8月4日（水）にアドバイザーの皆さんと連絡方法について協議。当初メールやメッセージで対応していましたが、行政アドバイザーと協議の上、普段のコミュニケーションについてはビジネス等で昨今用いられているチャットアプリ「Slack（スラック）」を活用し、会議時間外での個別相談や行政アドバイザーからの情報提供、また会議調整等を行いました。

【スラックの管理：グループの振分の状況】

	グループ名	用途
1	00-all 起業家の集まるまちPJ	PJ全体に向けた企画関係や他自治体等の情報
2	00-調整関係	日程調整、ZOOMのアドレス共有
3	01-pj 事業企画	各PJ連絡用
4	02-pj マーケティング	各PJ連絡用
5	03-pj 広報プロモーション	各PJ連絡用
6	99 守山市の情報提供-共有関係	市からのデータや市のトピックを共有
7	random	各人の上記1にはまらないアイデア・情報提供
8	記録その他	議事録の共有など

(4) その他

必要に応じて、行政アドバイザーの提案等もあり、スプレッドシートでの資料共有等、WEBツールを積極的に活用し、担当者に対しても利用の仕方やメリット、活用されるケースなど丁寧に助言をいただきました。

2 市事業への参画・連携の実績

(1) 琵琶湖ワーケーションモデルツアー

ア 実施日 令和3年10月25日（月）、26日（火）

イ 概要

本市の地方創生の取組の一環で実施する琵琶湖湖岸エリアの振興に向けたワーケーションモデルツアーを企画する中、行政アドバイザー4名をモデル参加いただき、2日間をかけ、東京を起点から守山市へ来訪し、地域のキーマンとの面談や市内起業支援施設や琵琶湖岸施設を視察、また自転車をはじめとした観光体験を行っていただきました。

ウ 実施効果

- 東京からのアクセスと仕事環境としての魅力と課題を客観的に分析いただき、市の観光施策や起業支援政策への助言をいただきました。
- 同事業に際して、アドバイザーより①同事業のリリース資料の作成支援②初来訪に合わせたの普段オンラインで行っている会議の公開会議実施（と、リリース）を提案いただくなか、メディア取材につながり、事業自体の発信と当該社会実験の取組の発信につながりました。

※上記の事業の中で、情報発信の観点やリリースのタイミング、メディアへのアプローチ工夫について助言いただいたことで、担当課職員としても大いに刺激を受けました。



(2) 起業支援機関等との意見交換会「地域未来ミーティング」

ア 実施日 令和3年11月22日

イ 概要

守山市を挙げた起業支援機運の醸成と受入体制作りのために令和元年度より、「地域未来ミーティング」と題して、市・県・国の行政や支援機関、金融機関、士業・コンサル、コワーキングスペース運営者等“起業を支援する側”で何ができるかを検討する意見交換会を守山市では実施しています。例年は講師をお招きして講演をいただくなか、リアルな起業家あるいはスタートアップの支援をしてきた視点からの意見をいただくため、今年度はアドバイザー4名をパネラー兼参加者として招聘し、「起業を支えるため、自身あるいは自機関で何ができるか」をテーマとして議論しました。（参考：参加者は守山市長、近畿財務局長、大津財務事務所長、日本政策金融公庫支店長他30名）

ウ 実施の効果

- 各アドバイザーの客観的な守山市や起業支援への見方、気づきへの助言などから、各参加者も非常に参考になったとの意見が多く、最終各自のコミットメント発表の際も具体的な意見が多くなりました。
- 同取組の様子は、動画編集し、ユーチューブにて公開するほか、12月年末年始にかけSNS広告（フェイスブック、インスタグラム）を実施し、地域内への取組発信につながっています。

【参考】動画タイトル：「スタートアップを応援！地域未来ミーティング！」

URL ▶ <https://youtu.be/7S6imhvChEY>



【特記事項①】

地域未来ミーティング来訪時には、あわせて下記のとおり①市職員②守山市内の起業意欲のある高校生と意見交換を行っています。

市職員との意見交換会

- ア 実施日 令和3年11月22日 午後3時から午後4時まで
- イ 参加者 守山市地域振興課、企画政策課、ICT政策課、商工観光課、秘書広報課
- ウ 概要

今回の社会実験では、地域振興課を主とした取組でしたが、他課職員との交流と課題発見につなげる目的で意見交換会を実施しました。各職員ベースでの現状の課題感（DXや職員コミュニケーション改革、人材育成やスキルアップなど）を把握・共有することができ、職員側にとっても民間視点でのノウハウやアイデアに刺激を受ける機会となりました。



守山市高校生との意見交換会

- ア 実施日 令和3年11月22日 午後4時15分から午後5時15分まで
- イ 参加者 立命館守山3年生2名、県立守山高校2年生1名

ウ 概要

守山市では、将来を支える若い世代の育成に力を入れる中、東京でスタートアップにかかわるアドバイザーらと高校生で、彼らの課題感と将来ビジョンの把握につなげるため、意見交換会を行いました。対象となる学生は、今夏実施した「もりやまキャリアチャレンジ」の参加者で将来の選択肢の一つに起業を掲げており、将来のビジョンに対する高校生の考え方などがよくわかりました。特に①若い世代には一定数起業家を志す方がいること②若い世代と大人の交流機会はまだまだ少なく、こうした機会づくりは求められていることなど、今後検討すべき可能性を確認できました。

【参考】活動記録

URL ▶ <https://note.com/impactlab/n/n4400521630de>



【特記事項②】

- ◆ 広報・PRアドバイザーの助言により、メディアへリリースし定例会議を公開実施
⇒ みんなの経済新聞「びわ湖大津経済新聞」に取材いただき、結果同ニュースがヤフーニュースにも取り上げられることになり、全国的な取組の発信につながりました。

掲載日：10月29日びわ湖大津経済新聞（ヤフーニュース）

「民間の複業人材アドバイザー、守山市に初来訪 琵琶湖岸ワーケーションを体験」

暮らす・働く

🕒 2021.10.29

民間の複業人材アドバイザー、守山市に初来訪 琵琶湖岸ワーケーションを体験



琵琶湖岸でワーケーションに取り組む田ヶ原さん

3 アドバイザーからの助言による実施事業の実績

短期的事業	▽起業家の集まるまちとしての広報戦略 ▽起業家ヒアリングとアンケート調査
中長期事業	▽当年度および次年度事業への助言・企画壁打ち ▽「起業家の集まるまち」のビジョンへの助言・壁打ち

(1) 起業家の集まるまちとしての広報戦略

【提言のポイント】

予算をかけない範囲でできることから進めていく企画、短期的に結果を出していくことも重要との指摘から、起業家を集めるには一定のインセンティブが必要との考え方もあるが、まずは①「起業家の集まるまち」として検索してすぐ情報にたどり着けないことからホームページの情報整理②SNSの活用③地域の起業家らの新しい取組が発信されやすい仕組みづくりなどの提案

ア ホームページの情報整理

市ホームページでは「産業」のカテゴリから「起業家の集まるまちづくり」へ入り情報を閲覧できる状況であったが、情報が見にくいため以下へ改善。

改善前	改善後
「起業家の集まるまちづくり」のページに新着情報順に掲載 例) 起業家の集まるまち →新着情報を掲載	政策の3つの方針ごとに情報を整理し、他課を含む補助金情報は個別に掲載 例) 起業家の集まるまち →①民主導の取組支援 ②地域を挙げた支援体制づくり ③将来を支える若い世代育成 ④補助金情報

【効果】

見やすくなったことはもとより、担当→事務員への指示もスムーズかつ明確になった。また、マーケティング・広報の観点から情報の検索の話が非常に参考になり、掲載情報等については担当課別の業務においても意識が変わった。

イ SNSの活用


市の情報発信としては、市自体の公式Facebookしかなかったことから、各種SNSのメリット・デメリットを指導・助言いただく中、地域振興課専用のTwitterを10月1日より開始。

※なお、当初3種実施を考えたが継続できるものと負担を鑑み1種類からがよいとの助言を参考に1つで開始。

実施内容
<p>○他自治体の取組情報の収集を行う中、SNSツイッター活用のマニュアルを作成</p> <p>○10月1日よりツイッターを開始。1～3日毎に情報発信を継続</p>
<p>【効果】</p> <p>○フォロワーはまだ少ないが情報発信の癖付けと発信すべき情報を探す、集める癖付けが課内で出来てきた。</p>

ウ 情報発信されやすい仕組みづくり

「起業家が集まる」という仕組みへの直接的なインセンティブではなく、起業にかかわらず「守山市は新しいことに挑戦する人の情報よく発信される、応援してくれる」イメージをまち全体で作るため、①記者やメディアが求める情報の把握②情報発信先の情報整理③メディアが求める情報の勉強会④情報が市に集まる仕組みへの検討に取組。

実施内容
<p>○記者クラブのほか、過去掲載をいただいた実績のあるメディア連絡先をリスト化</p> <p>○市職員の有志で情報発信に対する勉強会（9月）</p> <p>○地元新聞記者、地元メディアを講師に招き、職員有志との意見交換会（10月2回）</p> <p>○日本経済新聞と担当での意見交換会を実施（12月）</p> <p>○年度内における市職員や関係者による勉強会を企画（2月頃実施予定）</p> <p>※情報の集まる仕組みづくりは継続して検討をしております。</p>
<p>【勉強会の実施】</p>


【効果】

- 担当課のみでは地域情報収集に限界があるなか、実際の記者・メディア側の観点でほしい情報や求める市の対応がよくわかり、また他課との方針・情報の共有を通して、実施以降の担当者のみならず他課の記者とのやりとりが変わってきた。
- メディアの問合せに対する担当課のレスポンスの速さ、質が向上し、発信に対する感度や地域から情報収集の流れ、メディアとの関係性が飛躍的に上がってきた。
- 効果が実感できたが、まだ担当課、一部の職員ベースでの取組までしかできていないので、今後全庁的に底上げしていくことが課題であり、今後広げていきたい。

(2) 起業家ヒアリングとアンケート調査

【提言のポイント】

花火的な企画や漠然とした起業家のニーズを元に企画を考えて行うより、まず守山市として集めたい起業家の具体像を決める必要があり、そのために守山市の起業家の状況や具体的なイメージをつかむため、①守山市を取り巻く起業家らと意見交換②アンケート調査を行うことを提案。

ア 起業家らとの意見交換

令和元年度より「起業家の集まるまち」を目指し取組を進めてきた中、本市を取り巻く守山市、滋賀県の起業家を交えオンラインで意見交換を実施。

実施内容
○守山市へUターン起業した起業家：(株)しがトコ林氏
○守山市で新たにコワーキングスペースを整備した起業家：ジャパニーズ(株)中野氏
○令和3年度事業の関係者：(株)いろあわせ北川氏、(一社)インパクトラボ上田氏
【効果】
○守山市を客観的に見ることができ、なぜ守山市を選んだのかを含めた地域の強みのほか、守山市や担当課(者)の弱みや課題を把握できた。
○アドバイザーを介し意見交換を行ったことで各自の価値観が共有できた。

イ アンケート調査

8月の1カ月で市の状況等を把握するなか、9月からアドバイザーを交えアンケートを作成して調査実施。実施結果の分析、把握とアンケート結果としての整理を行いました。

実施内容
○WEBアンケートの作成(項目・シート)
○WEBアンケートの実施(9/23~10/3まで103件の回答あり)
○WEBアンケートの結果分析、結果まとめ
○市ホームページで公開
【効果】
○守山市の起業家、起業を志す方の視点や課題などが把握でき、想定していたこととの相違も非常によくわかった。
○アンケート結果のまとめ方、活用の仕方などの助言が参考になった。
●取得したアンケートと、アンケートで今後のやり取りを了承いただいている方のリストも得た中、予算要求や次年度事業に今後活用していきたい。

(3) 起業家の集まるまちの事業やビジョン形成への壁打ち

市内キーマンや起業家とのヒアリングと市担当との協議、アンケート調査結果と来市の際の地域施設視察や関係者との意見交換を踏まえ、今年度以降の「起業家の集まるまち」に向けた取組についてアイデア会議を11月1日から12月にかけて実施するなど、市担当課の考える起業家の集まるまちづくりに向けた政策についての壁打ちを実施してきました。

【検討の項目】

- ▽これまでの調査結果等を踏まえた守山市の強み（弱み）、今後の方向性
- ▽令和3年度まで実施してきた事業結果を踏まえての令和4年度の取組

- | | |
|-----|----------------------------------|
| 段階1 | 市の概要の全体把握・市のありたい姿と課題感の抽出 |
| 段階2 | アンケートおよび起業家、関係者へのヒアリング調査、守山市視察 |
| 段階3 | 市の強み、守山を取り巻く起業家の期待から市のありたい姿の再検討 |
| 段階4 | アイデア会議と守山市の取組の方向性 ※次年度予算要求や取組へ反映 |

ア 段階1.2の調査結果の概要（抜粋）

(7) 守山市の起業家、起業支援機関から整理したこと

市が起業支援に取組が意欲的であること、起業支援を掲げていること、また市の担当者との関係構築が出来ていることは把握できた。一方で、市外の起業家に対しての「守山市が起業家の集まるまち」というメッセージがそこまで浸透していないこと、目指す姿が抽象的あるいは目指す起業家の集まるまちのイメージ、その取組がわかりにくいという課題があることもわかった。

(イ) アンケートの結果

1週間で100件以上の回答を得られたことから協力いただいた支援機関や市内の起業家（起業を検討する方）らに対する関係は出来ていることがわかった。また、結果から、主に悩んでいる課題は「経営」「営業」で、それ以外では「マーケティング」「人材採用」「広報」であり、悩んだ際の主な相談相手で最も多いのは起業家仲間であることもわかった。

※その他特筆すべき事項

- ・守山で起業した理由→知り合いがいる 11（12.4%）
- ・今後の従業員の雇用方針→増やす方針 51.7%
- ・事業課題としてのDXは3.4%とまだまだ全然課題感はない
- ・守山での起業のメリット：起業家同士の連携が強い、交流の場が多い、起業家が多く励みになる

ウ 段階3のありたい・目指す姿の再検討

守山市が現状抱える起業家の集まるまちづくりに向けた課題が何で、どうすれば解決できるのかの抽象的で整理する必要がありました。以下、守山市への視察、現地での各関係者とのヒアリング、また市の担当との協議の中で以下が守山の可能性（良さ）と考え、アドバイザー視点での気づきを抜粋し列挙。

- 30代以上の起業家が多いが、都市部との環境の差はあるものの20代や学生起業が少ない。全国的にわかりやすいスター（30歳以下）を輩出するなどして知名度を上げるなどはどうか。
- 起業家があるまちというより、結果として集まっている状態を作る。
- 課題でもあり、一方良い意味でも守山市のカラーがなく、守らないといけないものがないという意味ではチャンス。
- 駅前の市街地エリア、田園エリア、琵琶湖エリアとそれぞれのバランスがよく、切替ができる地域であることが魅力の一つ。エリアごとのテーマ分け、あるいはエリアにいるシーン分けや戦略を検討してはどうか。
- 起業家が市内にしても、市外から守山市に関わる人にしても多いので、もっと結果が出てほしいと思う。
- 若い世代が起業家や大人と交流する機会は少なく、こうしたかわりをもっと作ってはどうか。
- フレームワーク、改めて①「誰に」「どのような言葉で」「話題にしてほしいか」
②「どういった人に」「守山を」「語られたいか」を考えてはどうか。

課題から考える目指すべき（目指したい）カタチ

実際にアドバイザーと「起業家の集まるまちのフレームワーク」を考える

- 無理やりでもこじつけでもわかりやすいメッセージをビジョン化してはどうか。「守山市」らしいもの、例えば比叡山を守るまち、だとして、「スタートアップを守るまち守山」「スタートアップの登竜門」などわかりやすいイメージ出したらどうか
- 今ある“種”を育てる、特に教育が大事だと思っており、いい人材が守山市には集まっている⇒「いい人材に守山市はアプローチできる」ということを発信
- 「アドベンチャー・アウトドア関係の起業を興すなら守山」として琵琶湖振興に力を入れているならそこに対して優遇する政策を打ち、人材を呼び込むなどの展開をしてはどうか
- 「守山市はいい意味で色がない、何もない」というイメージがあるので、これから作っていく（一緒に作っていける）まちをいうイメージを打ち出してはどうか
- 起業家の定義は色々あるが、「起業」という前に実は「何かを興す」、アントレプレナーシップ精神を持つという段階があり、こうしたことに目を向けるのもいいのでは。究極的にはやりきる力が必要。事業を起こすにはとにかく使えるものは全部使ってもや

る！というのが必要で、「プロ意識を持った人・人材が集まる（集められる）まち」というテーマもいいのではないか

- 起業を支援する取組で他社の例で「賃料：夢払い」という取組がある。「起業家の集まるまち」を目指すなら、スタートアップを目指す人の拠点があってよく、もし今それがなくても、例えば2年後にできる庁舎内にそういうスペースを作るでもいいし、2年かけてまちづくりをすすめる、スタートアップにチャレンジする人に「夢払い」で応援する、集まる仕組みを作るなどはどうか（道中のリリース含め）

エ 第4段階：事業化を検討するためのアイデア出しと壁打ち

今年度および令和4年度以降事業化を検討する上での企画球出と壁打ちを実施。課題検討と壁打ち等を重ねる中で予算要求時期にあわせて、事業化をすべき企画の検討。最終的なまとめは以下です。

- ▽守山市と市外県内の起業家とのネットワークを構築し、関係人口を増加
 - ⇒起業家が起業家とのコミュニティを作ることから、起業家とのネットワークを通じその起業家のコミュニティに対して守山市の良さ・魅力・政策を伝える。コミュニケーションの伝達方法、関係構築については検討する。
- ▽若い世代（学生、20代、30代前半）の起業家や起業家予備軍の発掘と応援
- ▽守山市からのわかりやすいモデル事例の輩出と応援する環境の整備
- ▽守山市が来てほしい「起業家」の定義とメッセージの発信
- ▽情報発信の仕組み作り
 - ⇒守山市での起業、挑戦をする方の情報が集まる仕組みとメディアとの関係づくり

オ その他：民間や他自治体における適時アドバイザーからの情報提供

政策の検討、アイデアの検討にあたってはアドバイザーよりスラックを通じて、他自治体や民間企業における起業支援に関する先進的な取組事例で本市にとって参考になる情報提供、またアドバイザーの関係のある人物や企業の紹介など行っていました。

実施内容
○令和4年度以降の取組方向性と政策の検討
○市への情報提供と定期的な壁打ち・助言
【効果】
○抽象的なアイデアの解像度を上げる助言、担当の見えていない視点や少し先に想定される課題を指摘いただくことで、社会実験の後半ではそういう視点での考え方が少しずつ身についた。
○スタートアップ業界の情報、取組が非常に参考になり、翌週会議までに自身で調べる、自己啓発する癖がつき、スキルアップにつながった。

参考情報 2 起業家の集まるまちアンケート集計結果まとめ

以下のとおり、アンケート内容をまとめ、市ホームページにて公開しました。同アンケート結果をもとに、令和4年度予算要求の検討および今後の起業家の集まるまちづくりに向けた取組方針を検討しています。

守山市内起業家へのアンケート実施結果について

1 働き方について

今回お答えいただいた割合は、法人開業 35.2%、個人開業 41.9%、副業や複業での開業 10.9%の構成となりました。

Q4 ご自身の働き方		n	%	(全体)% n=103	
SA					
1	法人 [CEO/COO]	19	25.7	23.3	33.8
2	法人 [経営層]	6	8.1	11.7	
3	法人 [一般従業員]	0	0.0	5.8	
4	シリアルアントレプレナー（複数回の起	1	1.4	1.0	
5	フリーランス	9	12.2	9.7	
6	副業（メインとなる本業がある）	7	9.5	6.8	
7	複業（メインとなる本業がなく2社以上で	1	1.4	1.0	10.9
8	週末起業	0	0.0	0.0	
9	個人開業 [士業・医師]	6	8.1	6.8	
10	個人開業 [商店・飲食店]	7	9.5	6.8	41.9
11	個人開業 [その他]	18	24.3	19.4	
12	パート・アルバイト	0	0.0	3.9	
13	主婦・主夫	0	0.0	0.0	
14	定年退職	0	0.0	1.0	
15	無職	0	0.0	0.0	
16	その他	0	0.0	2.9	
	計	74	100.0	100.0	

2 現在の会社・事業における課題

事業における現在の課題について質問したところ（選択肢式、複数選択可）、上位から「経営管理」41.9%、「営業」32.4%、「マーケティング」31.1%の順で、いずれも3割以上が何らかの課題を抱えていることが伺えました。また、アンケートでは法人か、個人開業かによって傾向にやや差がありました。

法人においては、「経営管理」「営業」「人材採用」「労務」の順に3割以上で上位を占める一方、個人開業者では、「マーケティング」「広報」が3割以上、「営業」「経営管理」が2割台で続く結果となりました。昨今官民ともにDX推進が注目されていますが、守山市ではまだ課題感が高くない印象です。

3 守山で起業した理由

守山市での起業理由は「地元だから」が50.6%で、「生活環境のよさ」や「知り合いが多いこと」が続きました。

Q10 守山で起業した理由				
MA		n	%	(全体)% n=89
	1 地元だから	42	56.8	50.6
	2 顧客が多いから	4	5.4	4.5
	3 知り合いが多いから	11	14.9	12.4
	4 支援が手厚いから	2	2.7	2.2
	5 生活環境が良いから	16	21.6	18.0
	6 特に理由はない	7	9.5	11.2
	7 その他:	13	17.6	24.7
	計	74	100.0	100.0

4 経営で困った時の相談先

起業家同士の連携が強く、起業や経営の悩みを県内外の起業家に相談していることが多いことがわかりました。

▼ランキング集計			n	%
1	5	滋賀県内の起業家・経営者仲間	40	54.1
2	4	商工会議所	24	32.4
3	6	滋賀県外の起業家・経営者仲間	24	32.4
4	3	経営コンサルタント	16	21.6
5	2	金融機関	10	13.5
6	1	自治体	2	2.7
-	7	その他	9	12.2
		計	74	100.0

5 守山で起業したメリットやデメリットについてのコメント

自由記入意見として以下を抜粋

- ・ 同年代の起業者の方々が多く、守山で起業した事が周りの人のやる気、仕事への意欲が出た話を聞くと良かったと思います。起業についてセミナーが知りたい情報が題材の時も多く、主婦層の相談も増えてきている、そこから仕事依頼にも繋がる。他の自治体の情報はとくにないのでデメリットはわからない。(40代起業家/創業1-2年)
- ・ 起業家が多く、頑張っておられる方が多いので励みになる (40代起業家/創業3-5年)

・他の市のことをよく知らないので比較することは難しいのですが、守山商工会議所の手厚いサポートは個人事業主にはとても心強くありがたく感じています。(40代起業家 / 創業10年以上)

・メリットは地元の方がサポートしてくれること。デメリットはまだまだ世界、全国に守山と言う名前が浸透してないこと (40代起業家 / 創業5年以上9年未満)

6 起業家たちが見据える今後の展開

(1) 従業員の雇用の方針

Q11 今後の従業員の雇用方針				
SA		n	%	(全体)% n=89
	1 増やす方針	37	50.0	51.7
	2 現状維持	37	50.0	47.2
	3 減らす方針	0	0.0	1.1
	計	74	100.0	100.0

(2) 今後理想とする事業・サービスの将来像に関するコメント

・世界で通用する仕事がしたいのと全国のお客様を確保したいです (40代起業家/創業5年以上9年未満)

・大麦ストローを販売していますが、店舗での販売の他にネットでの販売を進めています。環境に配慮した商品で、今年から JAS 認定の大麦の茎からストローを制作していて、環境意識の高い東京で販売したいと考えています。(50代起業家 / 創業1年以上2年未満)

◆アンケートの実施方法について

守山市内起業家を対象に現在の状況と今後の展開についてウェブ上でアンケート調査を実施しました。

実施期間 2021/9/22(水)～2021/10/3(日)

対象 守山市で起業し、現在も守山市で事業を営む起業家

調査内容 事業実態、事業課題・将来像、支援・相談先、基本属性

調査手法 インターネット調査

※ウェブ上に回答用フォームを公開し、個別に誘導するクローズド型で実査(無記名式)

回答数および有効回答数 n=103件(有効回答74件)

4 総括

約5ヶ月にわたる社会実験を踏まえての成果と課題について報告いたします。

1 社会実験の狙いと目標

本市については、地方創生の取組の一つとして、「起業家の集まるまち」をキーワードとした起業創業の取組を令和元年度からスタートして今年度で3年目となります。

予算や人員に限られる中、都市部で起業、あるいは起業支援に関わる中で豊富な知見・実績を保有する、企画・広報・マーケティング分野のアドバイザーと担当職員で「起業家の集まるまちを作るプロジェクト」として、終了後以下が達成できている状態を目指して取組みました。同内容は、キックオフから8月前半にかけての定例会議の中で各アドバイザーと共有しています。

(1) プロジェクトの目標（アドバイザーへの期待事項）

- ▽市の事業への助言と情報提供（予算が必要・不必要も含め）
- ▽市の予算を活用して期間内年度内に実施する事業参画
- ▽アドバイザーそれぞれ個別事業（情報提供・事業協力）
- ▽次年度以降の事業や市の今後のビジョン形成

※既にアナザーワークスと連携し、民間人材と連携した取組をしている自治体では、「広報・PRの改善」「DXの推進」「人事戦略」など既存事業に対し専門分野のアドバイザーと担当課で進めていく例が多いものの、本市では一つプロジェクトと共同で行う形式でアドバイザー同志も交流する形としました。

(2) 担当課（者）の目標

▽行政アドバイザーは、当該期間内においては、地域振興課の右脳・左脳たるアドバイザーであり、席を並べる仲間かつ行政職員の一員であり、敬意と労いの気持ちを持って一つの目標に向かって取り組むこととします。

▽担当課と職員は、東京都市部の起業家目線、ICT技術や専門的なスキル、情報提供に対して常に学ぶ姿勢を持ち、定期的な会議の運営、事前資料準備と助言に対する素早いレスポンスを心掛け、市職員としての能力向上・成長に努めます。

2 設定した目標の結果

概ね達成

※ただし、起業家の集まるまちづくりのプロジェクトとして、5ヶ月をかけてスタート地点に立てた状況ですので、今後の取組で具体的な成果を上げていきたいと考えます。

3 総括

(1) 取組の成果

ア プロジェクトの実施における守山市の魅力発信

- 5月協定締結およびキックオフの開始以降、県内市内起業家や支援機関、メディアや他自治体においての反応がかなりあり、守山市が起業家の集まるまちとして新たなことにチャレンジした内容や素晴らしい経歴を持つ民間人材アドバイザーが守山市にかかわっていること自体が注目を集めました。
- 9月末、10月末に自治体間の情報交換会を開催いただいたことで他自治体の悩みや課題感が共有できたことも非常によく、また他自治体とは差別化した取組を通して、本市の地域内外への発信につながったと考えます。

イ 個別事業実施における成果

- 守山市の集まってほしい起業家の具体像を設定することに対して、アドバイザーの冷静な分析とアイデア、可視化するための助言・支援がかなりありがたく、現状分析と課題整理が進んだと考えています。
- 広報や取組の情報発信、ワーケーションや地域未来ミーティングの既存事業への助言やアイデア提供については、親身になって伴走いただいていた中で行事業自体の質が向上し、行政にない視点、できない発想がとても参考になりました。
- 市内外起業家らとオンラインでのヒアリング、来市機会での面談を通して、結果としてその方々との本市との関係も改めて強くなり、行政アドバイザーが市職員の一員として機能したいい事例となりました。

ウ 担当課（職員）の変化

- 担当者自身、起業やビジネスに関わる用語、IT知識に疎く、また時間管理が苦手でしたが、スラックやアプリの活用、オンライン会議の調整、会議進行等助言いただくことでかなりスムーズに行えるようになってきたこと、次回会議までの準備に向け直ぐに調査する、自己啓発する癖がつき、他の業務を進めるうえでも事務や調査スピードや企画整理→実行までが早くなりました。
- 課題は課題として挙げるものの、かなり意欲的に取り組み、準備の大変さや苦勞も含め既存業務とのバランスを維持し、むしろ他業務へも相乗効果があり、職員の能力の向上と発想の広がりを感じています。
- わからないことをそのままにせず調べる・相談する習慣と、この過程で地域内外の起業家や支援機関に課題共有をすることが増え、結果として担当課とこうした方々との自然なネットワークや関係構築につながりました。

(2) プロジェクトでの運営への所感

ア 全体の運営

(ア) 無報酬について

「気を遣う」ことはどうしてもあり、また行政アドバイザー側の負担（感）が最後まで私にはわからず常に不安でしたので、行政アドバイザーの皆さんにとって相互メリットを感じていただける機会提供やプロジェクトの関わりしろをもう少し整理しておくべきでした。

→その分、情報提供や情報収集、調査、庁内調整に相当時間を費やして行政アドバイザーの負担（感）を軽減しようと心がけました。

(イ) 実施の期間

プロジェクトの時期、期間は最適でした。

(ロ) 守山市の概要説明や情報提供

コロナ要因で来市いただくことが難しく、実験開始から8月、9月までを守山市の概要やバックグラウンドの共有、アドバイザーとの関係構築に時間を割きました。10月以降も、毎回の会議やスラックでのコミュニケーションにおいて守山市の情報（トピック）を必ず提供するよう心掛けましたが、実質的には10月頃から具体事業を動かしていったことを考えると、もう少し早めに終わらせておけば、より良かったと反省しています。

(ハ) その他（業務の委任、個別事業）

- 職員の一員として活動していただくことを目標としていましたが、「この事業はここまであなたがやってください」という依頼がどうしても最後まで遠慮してできませんでした。※本事業は無報酬かつ委託業務とは違いますので、担当が信じて任せきれていない部分で行政が苦手な部分かもしれません。
- 行政アドバイザーやプロジェクト自体の内容によるかもしれませんが、行政アドバイザー自身で個別に動いていただく、ネットワークを活用して個別に成果を上げていただくことを漠然と期待していましたが、上記の流れを担当で作れず、効果が感じられませんでした。

イ 官民連携、民間人材の活用に対する市の体制に対する課題認識

- 民間人材との貴重な交流機会にもかかわらず、本プロジェクトに課全体や他部署が参画をしておらず、またアドバイザーの気づきをヒントに各種取組を進めるうえで他課の情報収集や調整を進めてきましたが、柔軟な政策検討には現状の縦割りでは限界を感じており、他部署や他の職員の巻き込み、行政全体の機運醸成が必要と感じました。
- ICT（ツール）への知識、活用に関しては、職員一人ひとりのリテラシーの向上とセキュリティ維持とのバランスも考えつつ、行政自体の受入体制は検討をしないと官民連携、特に民間スピードに対しついていけないと感じました。

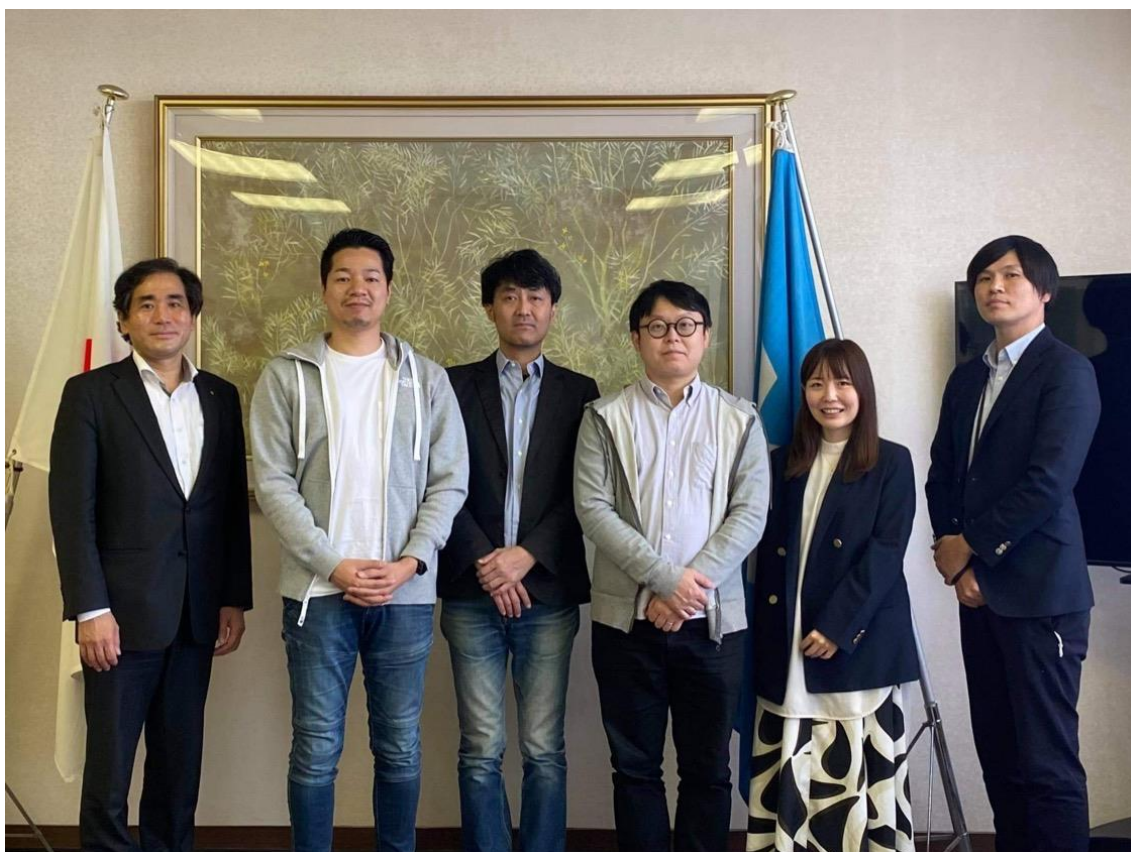
4 行政アドバイザーの外部評価

別紙のとおり

5 今後の民間人材の活用と官民連携に向けて

本プロジェクトを受けての今後の取組について、5カ月をかけて、起業家の集まるまちを目指した令和4年以降の方針が明確になり、新たなスタートラインに立つことができたと考えています。現在進めている具体的な広報の計画や今年度事業、また予算要求を行っている次年度事業を含め、着実に進めるとともに、今回参画いただいた各アドバイザーへは経過報告を行っていきます。

また、業務を進めていく上では、守山市をどのように語られたいかを常々考え、認知と共感につながる政策展開を進めていきます。



参考情報3 メディア掲載情報

【参考：メディア掲載実績】

◆ 5月20日協定締結について

京都新聞（左）、時事通信社（右）



◆ 7月27日キックオフミーティング ◆ 8月6日

京都新聞

びわ湖大津経済新聞およびヤフーニュース

守山市「複業人材」登用 「起業家のまち」推進のためアドバイス



守山市とAnother worksが連携協定を締結し、複業人材を登用した

◆10月15日 守山市 広報守山掲載

「起業家の集まるまち守山」の実現へ 私たちのミッションがスタート

☎地域振興課 ☎(582)1165 📠(582)1166

民間複業人材が行政アドバイザーに

守山市では地方創生の取り組みとして、「起業家の集まるまち守山」をキーワードに、起業支援の取り組みを進めるなか、民間人材と協働した起業家の集まるまちづくりの推進に向けて、5月20日に協定を締結した株式会社Another worksと連携し、官民連携でまちづくりを推進する社会実験を実施しています。



アドバイザーの皆さんは、会社員やフリーランス、企業経営など、それぞれ仕事をしながらプロフェッショナルなキャリアとノウハウを生かし、ご自身の魅力や可能性を楽しみ、向上させるパラレルキャリアを目的とされています(全員東京都在住)。

●今回、登録された行政アドバイザーの皆さん

今は東京に住んでいますが、新しい地元貢献への形にチャレンジしたいという想いから、今回の行政アドバイザーの取り組みに、マーケティングの領域で参加させていただきました。5ヵ月間、4人で力を合わせて守山市のために頑張りたいと思います。



マーケティング
アドバイザー
吉川 賢治さん(36歳)
守山市出身



事業企画
アドバイザー
坂口 賢司さん(41歳)
東京都出身



事業企画
アドバイザー
早川 延寿さん(47歳)
東京都出身



広報・PR
アドバイザー
田ヶ原 恵美さん(27歳)
滋賀県出身

(1) 社会実験の概要

複業マッチングプラットフォームにより、都市部で活躍する民間業人材を公募し、全102人の応募者の中から3職種4人を行政アドバイザーとして登録しました(無償)。
期間 令和3年8月~12月の約5ヵ月間
活動 週1回、約1時間の定例オンラインミーティングを実施しています。



オンライン定例ミーティングの様子

◀アドバイザーから出た提案・意見▶

- ・都市部で働く人にとって居住地は関係ない。仕事、目的がある場所には集まる
- ・守山市の起業家に関する現状把握を実施(アドバイザーがアンケートを話し)
- ・集めたい起業家のペルソナを設定(アドバイザーが整理)

(2) 今後の取り組みについて

市が実施する年間事業への連携・助言をいただくなか、最終的には社会実験期間内の実施結果の検証と、次年度政策への提言と取りまとめなどを行います。また、各アドバイザーが個別に本市のための事業やアイデアなどを考慮していただき、新型コロナウイルス感染症の状況を鑑みながら本市にお越しいただく予定です。

◆12月23日 京都新聞掲載



参考情報 4 行政アドバイザーとの協議実績

アドバイザーとの協議・面談した会議の運営は原則オンラインとして、会議は1時間を基本として以下のとおり実施しました。

(1) 定例会議 全 20 回開催

	実施日時	内容
1	8月4日(水) 午後3時から4時	守山市の概要説明
2	8月12日(木) 午前10時から11時	社会実験での取組・期待すること
3	8月19日(木) 午後2時から3時	地方・守山市の求める起業家像
4	8月25日(水) 午後1時30分から2時30分	守山市の求める起業家像
5	9月6日(月) 午後3時から4時	起業家へのアンケート設定
6	9月15日(水) 午後2時から3時	アンケートの調整
7	9月22日(火) 午後2時から3時	アンケート完成とヒアリング方針
8	9月30日(木) 午後1時30分から2時30分	アンケート実施結果⇒分析へ
9	10月6日(水) 午後2時から3時	ワーケーションモデルツアー協議 地域未来ミーティング協議 アンケート結果共有
10	10月15日(木) 午後1時から2時	市事業の調整 アンケート結果共有
11	10月20日(木) 午後2時から3時	ワーケーションツアー調整 11月地域未来ミーティング協議 ※いろあわせ同席
12	10月26日(火) 午後3時30分から4時30分 【対面での初会議】	※メディア公開会議 ワーケーションツアー振返り アンケートまとめ方の整理 11月以降次年度の取組方針の検討
13	11月1日(月) 午後2時から3時	次年度以降の取組や予算要求に向けた企画会議
14	11月10日(水) 午後2時から3時	次年度以降の取組や予算要求に向けた企画会議
15	11月22日(月) 午後1時から2時 【対面での会議2回目】	地域未来ミーティング振返り 次年度以降の取組や予算要求に向けた企画会議 (ランチミーティング)

16	12月1日(水) 午後2時から午後3時	令和4年度予算要求の概要説明 令和4年度1月以降の取組について
17	12月8日(水) 午後2時から午後3時	令和4年度1月以降の取組について アンケート集計結果まとめ
18	12月11日(土) 午前11時30分から午後1時 【東京での対面会議1回目】	起業家の集まるまちづくりへのアイデア相談 (ランチミーティング)
19	12月15日(水) 午後2時から午後3時	守山市の起業家の集まるまちづくりに向けたフレームワーク
20	12月23日(木) 午後2時から午後3時	【最終会議】 社会実験の総括・振り返り

(2) 個別会議 全16回開催

市担当の要請により、①個別に相談したい案件がある場合(定例会議もしくはスラックで個別提案をいただいた内容で不明点等がある場合) ②地域や起業家の声を直接聴く場合に個別の会議を開催しました。

	実施日時	内容
1	8月5日(木) 午後2時から3時	◆吉川アドバイザー 守山市の概要のヒアリング
2	8月19日(木) 午後6時から7時	◆吉川アドバイザー 株式会社しがトコ(Uターン起業家)への守山市のヒアリング
3	8月20日(金) 午後6時から7時	◆吉川アドバイザー ジャパニーズ株式会社(守山市へのコワーキング出店)への守山市ヒアリング
4	8月24日(木) 午後3時30分から5時	◆田ヶ原アドバイザー 市商工会議所、観光協会との広報計画の協議・ヒアリング
5	9月6日(月) 午後1時から午後2時	◆早川アドバイザー 守山市の行政課題の整理
6	9月6日(月) 午後4時から午後4時30分	◆田ヶ原アドバイザー 民間人材を活用した実験の成果と広報計画について
7	9月10日(金) 午後4時から午後5時	◆吉川アドバイザー 起業家の集まるまちのWEB情報の整理 横ラボその他
8	9月21日(火) 午前10時から11時	◆田ヶ原アドバイザー 埼玉県横瀬町の田端氏を紹介、対談取材
9	9月28日(火) 午後6時から7時	◆田ヶ原アドバイザー 株式会社しがトコとワーケーションの打ち合わせ

10	9月29日(水) 午後5時から午後6時30分 【アナザーワークス連携自治体合同会議】	株式会社アナザーワークスとの連携自治体によるオンライン意見交換会
11	10月4日(月) 午後4時から午後6時	◆早川アドバイザー・吉川アドバイザー 一般社団法人インパクトラボへ若い世代への起業教育へのヒアリング
12	10月7日(金) 午前11時から午後0時	◆田ヶ原アドバイザー 広報計画と内容の協議とワーケーションの打ち合わせ
13	10月11日(火) 午後4時から午後5時	◆吉川アドバイザー 株式会社いろあわせと地域未来ミーティングの協議
14	11月16日(火) 午後3時から午後4時	◆田ヶ原アドバイザー 広報計画と内容の協議とワーケーションの打ち合わせ
15	11月30日(火) 午後4時30分から午後6時 【アナザーワークス連携自治体合同会議】	株式会社アナザーワークスとの連携自治体によるオンライン意見交換会
16	12月16日(木) 午前11時から午後2時まで	◆田ヶ原アドバイザー 京都新聞でのアナザーワークスの取組および田ヶ原さんの紹介記事に向けた取材